

小布施中学校との交流の実践（郡の研究授業関わって）

「英語を使う必要感」を持たせることは、授業において意外と難しい。「外国語活動の授業だから、英語を使いましょう」と言うわけにはいかない。子どもたちにしてみれば、わざわざ英語を使わなくとも、日本語で意思疎通ができてしまう。そこで総合的学習の時間では、外国の方を招き、英語を使わなければ交流ができないような状況を設定する授業が多く行われていた。このような交流活動では、「何とかして自分の思いを伝えよう」と授業に取り組む姿が多く見られる。場面設定としては非常に有効なのだが、問題点もある。交流相手を選ぶのが非常に難しいということである。「もっと、身近に英語を使って交流することができる相手がいないだろうか」と考えた時、小中連携という観点から『小学生と中学生の英語を使っての交流』を中学校英語科の先生方と検討をし、以下の実践を行った。

①児童の実態

授業を行った学級は、小学校3年生である。1年生から月2時間程度の英語活動を行っており、3年生になり歌やゲーム活動だけでなく、友だちと英語を使ってやりとりすることにも楽しみを感じ始める児童が増えてきた。毎時間の挨拶ゲームやお買い物ごっこ等の活動では、学級の色々な友だちと楽しんで活動をする姿が見られた。しかし、他の学級や他学年と行われる交流の場面では、いつものメンバーで固まってしまい、自分からコミュニケーションをとることに消極的になってしまう姿が見られた。

②中学生のお兄さんお姉さんのことをもっと知りたいと願った子どもたち

2学期になり、中学生に姉を持つ児童が、文化祭に向けて歌の練習に励んでいる姉の姿を日記で紹介してくれた。学級でも音楽会に向けて合唱練習に励んでいた子ども達は、「上手な歌を聴いてみたい」と希望し、中学生との歌の交換会を行う流れとなった。初めての中学校訪問に多くの子たちは、胸を躍らせていた。当日は、緊張しながらも自分たちの合唱を聴いてもらい、中学生の迫力ある歌声を聴いた。お互いの感想発表でユーモアたっぷりに感想を語ってくれた中学生に、子どもたちはすぐに親しみを感じた。子ども達は、更に中学生と仲良くなるために「お兄さんやお姉さんのことをもっと知りたい」と願いを持った。子どもたちに「自己紹介をしよう」と持ちかけると、意外にも多くの子たちが抵抗を示した。そんな中「英語で自己紹介するなら恥ずかしくない」という子がいたのである。そのつぶやきに多くの子たちが共感を示した。また、英語活動の授業で名刺交換をしていたことも話題になり、「中学生と英語を使って名刺交換をしたい」と意欲をもったのである。

③単元によせた願い

本単元では、中学生との交流の場面で、英語を使って自己紹介をしたり、お互いの好きなことを聞き合う活動を通して、英語の表現に親しんだり、友だち以外の人とコミュニケーションを楽しんだりすることをねらいとした。

中学生との交流活動は、「相手のことをもっと知りたい」「自分のことを知ってもらいたい」という願いを持って活動に取り組むことが期待できる。また、学年が離れていることもあり、消極的な児童にも中学生から関わりをもってもらいながらやりとりをすることで、次第に自分から関わろうとすることも期待できる。

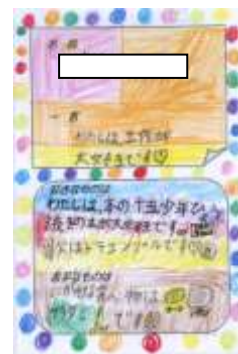
そこで、単元を4時間で構成し、第1時には、交流への願いをふくらませるために中学生に英語で聞いてみたいこと出し合って、必要な表現を確認する。そして、第2時では英語を使って交流するという

目的意識を持ち、学級担任・ALT や学級の友だちどうして練習の活動を行う。また、実際の交流場面では、相手に伝わるようにジャスチャー等も交えてはっきりと伝える事や、アイコンタクトをする等の態度面でのポイントを意識できるように、活動に入る前や例示で確認したり、授業後のまとめで自己評価をしたりお互いに評価し合ったりする。第3時と第4時では、実際に中学生と英語を使って交流をする。

このようにして、相手を意識しながら、自分から積極的にコミュニケーションを楽しむ姿を目指したいと考え、本単元を設定した。

④教材によって意欲を持った子どもたち

授業において教材の持つ力は大きいと常々感じている。本単元でもそれを改めて実感することになった。構想の段階で「交流をするなら、名刺なども記念に残るようなものにした方がよい」と研究推進グループで話題になった。それを受け、子どもたちが丁寧に作った名刺をスキャンして、光沢紙に20枚ずつカラー印刷し、一人ずつプリクラサイズの顔写真を用意した。また、その名刺を収納できるファイルを用意した。できあがった名刺を手にした子どもたちは、大喜びであった。練習として学級の中で名刺を使った自己紹介を行ったのだが、目を輝かせ活動に取り組む姿が多く見られた。名刺があることで、英語での表現も普段より自信を持って取り組むことができた児童が多くいた。一人一人が丁寧に作った名刺である。全員の名刺が欲しくなった子どもたちは、休み時間になっても名刺交換を続けた。結局、「次の時間もやりたい！」との願いで全員と名刺交換を行ったのである。



いよいよ中学生との交流である。日記に交流に寄せる思いを綴ってきた子たちがいた。

- ・色々な人と仲良くなりたいです。
- ・中学生の好きなものを知りたいです。
- ・中学生は、とても英語がうまそうなので、中学生の英語もいっぱい聞いてみたいです。
- ・中学生のお兄さんお姉さんたちは、英語がどのくらいうまいか楽しみです。うまい英語を聞けるので楽しみです。
- ・がんばって、できるだけ英語でしゃべりたいです。
- ・早く名刺交換をしたいです。

日記を読んで驚いたのだが、子どもたちは「中学生と英語で話すこと」「中学生の英語を聞くこと」「自分の英語を中学生に聞いてもらうこと」を楽しみにしている子たちもたくさんいた。子どもたちの中に「英語を使う必要感」も生まれていたのである。

⑤1回目の交流

子どもたちが待ちに待った交流会が始まった。多くの子たちが積極的に関わる姿が見られた。「英語を使うこと」にドキドキした児童もいた。手立てとして、「今回のやりとりは、全て中学生から行う」ように計画をした。中学生にとっては難しい表現ではないので、自信を持って話すことができていた。小学生も十分に慣れ親しんできた表現ではあったが、中学生が話すのを聞いてまねをすればよいので、多くの子たちが自然と英語を話していた。

また、中学生の側でも自然と小学生に視線をあわせて自己紹介をする等、相手を意識して、積極的にコミュニケーションをする姿が見られた。

授業の後半は、ペアになり相手が好きな物を予想してカードに記入し、それを Do you like~?を使って質問しあう活動を行った。学級の友達であれば、相手の好み等については、およそ予想がつくが、初めて出会った中学生の相手の好みを考えることは、難しくて楽しかったようである。中学生に好きなフルーツを質問した児童がいた。

小学生：Do you like apples?	中学生：No, I don't.
小学生：Do you like oranges?	中学生：No, I don't.
小学生：Do you like lemon?	中学生：No, I don't.
小学生：Do you like strawberries?	中学生：No, I don't.
小学生：え～も～一体何が好きなの？	

と、半ば楽しみながら次々と質問をする姿が見られた。

授業後の感想で、「中学生が好きなマンガを聞きたい。」「中学生の好きなスポーツを聞きたい」というような記述が多かったことから、上記の子と同じような思いをした子どもたちが何人もいたようである。

次時に向けて、子どもたちの願いは「What ~ do you like?を使って、もっと中学生に質問したい」と自然に流れていった。

⑥2 回目の交流

2 回目の授業は、郡の研究授業として実施された。先生方に囲まれる中であつたが、子どもたちにはそれほど関係なかったようである。本時では、緊張感よりも「中学生と英語を使ったゲームをしたい」「早く色々聞いてみたい」という願いが強かったのである。

1 回目の交流では、名刺交換の際に自分からなかなか関わりを持たずにいた児童もいた。「話したい」「名刺を交換したい」けど、恥ずかしさが全面に出ていた。そのような児童には、担任に中学生のところまで引っ張っていかれたり、中学生が来てくれるのをひたすら待っていたりしていた。2 回目の交流では、そのような子たちも自分から中学生に向かっていく姿が見られた。また、中学生の側も明らかに「自分たちから積極的に関わらなくては・・・」という意欲で関わってくれている姿が見られた。中学生のコミュニケーションをしようという態度が、小学生を勇気づけていた面も大きくあつた。グループで質問が終わり、全体での活動になっても相手を見つけれず立ち止まったままの子どもはいなかった。全員が数人の中学生に What ~ do you like?を使って質問することができたのである。

【子どもたちの感想】

- ・色々な人としゃべられて楽しかった。
- ・好きなものを聞いてよかった。
- ・英語でちゃんとできてよかった。
- ・この前よりももっと仲良くできた。
- ・中学生の色々なことが知れた。
- ・3年4組のお兄さん、お姉さんはすごく優しくかった。
- ・名刺交換がいっぱいできてよかった。アイコンタクトもちゃんとできた。
- ・色々な人の名前が知れてよかった。
- ・今日は、恥ずかしがらずにできました。